

「ひたすら講武の事を沙汰せられける」

太平の江戸時代中期、質実剛健の士風はすたれ、幕府の中核部隊であるはずの旗本五番方の面々は満足に乗馬も出来ない体たらくであった。

こうしたなか將軍となった徳川吉宗は、新旧さまざまな武芸奨励を実施し、軍事演習さながらの大規模な狩猟をも敢行した。

番士を鍛え直すべく始められた 吉宗の武芸奨励の実態に迫る

《内容目次》

序 論

第一章 衰えゆく尚武の気風と吉宗の登場

- 第一節 旗本五番方について
- 第二節 吉宗期以前の武芸奨励
- 第三節 吉宗の登場と武芸奨励の意図
- 小 括

第二章 惣領番入制度

——旗本惣領に対する武芸奨励——

- 第一節 総番入制度の停止
- 第二節 惣領番入制度の創設と展開
- 第三節 惣領番入制度のもたらす恩恵
- 小 括

第三章 武芸上覧と武芸見分

- 第一節 武芸上覧と武芸見分の連携
- 第二節 武芸上覧に参加すること
- 小 括

付 論 御供弓について

第四章 狩猟の復興と勢子運用の発展

- 第一節 鷹狩の復興と勢子
——享保二年五月十一日の鷹狩——
- 第二節 勢子の展開
- 小 括

第五章 小金原鹿狩

- 第一節 享保の小金原鹿狩
- 第二節 受け継がれる小金原鹿狩
- 小 括

終 章 吉宗の武芸奨励の意義

——伝統と革新、その二面性——

あとがき／索引



横山輝樹 著

徳川吉宗の 武芸奨励

近世中期の旗本強化策

2017年 7月刊行予定

定価：本体 7,500円(税別)

▶ A5判・272頁

ISBN978-4-7842-1899-8

よこやま・てるき… 1980年、三重県生。2013年、総合研究大学院大学博士後期課程修了。博士(学術)。現在、近鉄文化サロン上本町講座講師、伊賀市歴史研究会臨時職員。主な業績に『伊賀市史』第2巻第8章2・3項(2016年)ほか。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コ ー ド 3 4 0 2)	
冊 数	冊	徳川吉宗の武芸奨励	本体7,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1899-8	
お 名 前		tel		本書HPのQRコード	
		e-mail			
ご 住 所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古編

明治政府が独立を堅持できたのは、先行する徳川日本の文明史的力量という素地があったからであるという視点にたち、徳川社会はどのような力をいかにして形成しえたのか総合的に究明する、多分野の研究者による書き下ろし論文25本。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・730頁／本体9,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1800-4

幕末期の老中と情報

佐藤隆一著

水野忠精による風聞探索活動を中心に

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析することで、基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにする。

▶A5判・520頁／本体9,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1702-1

幕末・維新の西洋兵学と近代軍制

竹本知行著

大村益次郎とその継承者

幕末・維新の動きの中で、先人たちは国際環境に自らをどのように位置づけ、どのように西洋から兵学を受容し軍制を確立していったのか。日本という近代国家形成と国民形成の推進に大きな役割を果たした軍隊の創設の軌跡を、大村益次郎とその遺志をついだ山田顕義らの動向にたどり、その政治史上の特性を探る。

▶A5判・340頁／本体6,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1770-0

幕末期長州藩洋学史の研究

小川亜弥子著

幕末維新期の変革に洋学が如何なる役割を果たしたかを射程にすえ、この変革の重要な担い手となった長州藩の洋学の実態に、軍事科学化という側面から迫り、また洋学史的側面からのアプローチにより、長州藩明治維新史研究の空白を埋めることをも目指した意欲作。

▶A5判・284頁／本体6,800円(税別)

ISBN4-7842-0967-0

転換期長州藩の研究

小川國治著

思文閣史学叢書

長州藩の宝暦改革とその後の展開を、改革派の権力確立過程、藩財政と経済政策、検地の実態、西廻り海運の整備、撫育方と開作事業、などから意欲的に論じた一書。【内容】宝暦改革の前提／宝暦期の藩財政と経済政策／宝暦検地／西廻り海運と港町の整備／撫育方と開作事業／産業の開発と統制

▶A5判・422頁／本体8,800円(税別)

ISBN4-7842-0908-5

東アジアの本草と博物学の世界 [全2巻]

山田慶兒編

18世紀、西洋の博物学の背景には大航海による世界の拡大と東洋貿易・植民政策があり、日本の本草の土壌となったのは吉宗の全国産物調査をはじめとする幕府や諸藩の殖産政策と外国貿易であった。日本で遭遇した本草学と博物学が多分野へ影響したことを多角的に考察する21篇。国際日本文化研究センターでの共同研究の成果。

▶A5判・平均370頁／各本体7,500円(税別)

阿蘇下野狩史料集

飯沼賢司編

阿蘇の五岳の西山麓に広がる広大な原野、下野。そこで中世に行われた「下野狩神事」は、源頼朝の富士の巻狩りの手本となったとされている焼き狩神事であり、阿蘇宮最大の重要行事であった。その史料である、永青文庫所蔵『下野狩日記』『下野狩旧記抜書』とその関連文書、阿蘇家所蔵下野狩関連史料を翻刻。解題、用語解説を付す。

▶A5判・314頁／本体7,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1611-6

※幕末軍事技術の軌跡 佐賀藩史料『松乃落葉』

杉本勲・酒井泰治・向井晃編

幕末期、西欧科学技術導入が最も進んでいた佐賀藩の藩主鍋島直正の側近として活躍した本島藤太夫松蔭の編著で、杉本博士を中心とする「西南諸藩洋学史研究会」が翻刻、解説、異本との校訂などしたものを。翻刻にあたっては佐賀県立図書館鍋島文庫所蔵本(全4巻)を底本とした。

▶A5判・450頁／本体8,500円(税別)

ISBN4-7842-0467-9

※一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1580-5

徳川將軍家領知宛行制の研究

藤井讓治著

思文閣史学叢書

近世社会、特に領主社会での徳川將軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川將軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。各章末に領知朱印状の一覧を付す。

▶A5判・412頁／本体7,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1431-0

西洋化の構造 黒船・武士・国家

園田英弘著

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。第16回サントリー学芸賞受賞。

【内容】「極東」の終焉 黒船前史／蒸気船ショックの構造／海防の世界—共有世界の成立と展開／郡県の武士—武士身分解体に関する一考察／森有礼研究—西洋化の論理—忠誠心の射程 他

▶A5判・380頁／本体7,500円(税別)

ISBN4-7842-0801-1

洋学史論考

佐藤昌介著

思文閣史学叢書

明治維新の胎動を準備した大槻玄沢・高野長英・小関三英・福沢諭吉・渡辺崋山らの諸業績の分析を通して洋学を受容と発展を解明し、あわせて近代化に果たした軍事の科学化と軍制改革・軍楽などを論じる著者最新の論集。

▶A5判・410頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-0782-1

幕藩制国家の成立と対外関係

加藤榮一著

思文閣史学叢書

幕藩権力がどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

▶A5判・468頁／本体8,800円(税別)

ISBN4-7842-0954-9

本草学と洋学 小野蘭山学統の研究

遠藤正治著

日本本草学の頂点、小野蘭山の学統を考察の対象にし、洋学の影響を受け国際的視野を備えた博物学的な本草研究の実態を探り、わが国最初の近代的植物図譜『草木図説』誕生の環境を明らかにする。第2回徳川賞受賞、第16回矢数医学史学賞受賞。

▶A5判・400頁／本体7,200円(税別)

ISBN4-7842-1150-0

鉄砲 伝来とその影響

河富雄著

『鉄砲伝来記』(1939年刊)以来半世紀、日本史家としての関心から鉄砲に取り組んできた著者の総決算ともいえる力作。

【内容】歴史を変えた鉄砲の伝来／種子島銃製造法の伝播／鉄砲の起源に関する諸問題／秀吉の朝鮮侵略・維新内乱と鉄砲・二人の異なる砲術家

▶A5判変・530頁／本体9,800円(税別)

ISBN4-7842-0657-4

軍事技術者のイタリア・ルネサンス

白幡俊輔著

築城・大砲・理想都市

15世紀シエナの建築家、フランシスコ・デイ・ジョルジョの築城術のなかに共存する合理的な態度と非合理的な態度や、16世紀以降の築城術にも「理想都市」論的な要素がみられる点など指摘し、ルネサンス期の築城術の変遷過程を問い直す。

▶A5判・294頁／本体5,600円(税別)

ISBN978-4-7842-1625-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。